

## 四旬節第二主日

2017.3.12

マタイ 17・1-9

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高

今日の福音はイエスのご変容といわれる場面です。イエスに連れられて、高い山に登った三人の弟子たちは、それまでつき従って来たイエスのお姿が自分たちの目の前で変わり、光輝くのを目撃したのです。これがご変容と言われる出来事です。毎年、今日の四旬節第二主日には、マタイ、マルコ、ルカのそれぞれの福音書から、同じイエスのご変容の場面を朗読するよう指定されています。このような朗読箇所指定にはどのような意味があるのでしょうか。

先週の日曜日9時半のミサで、洗礼志願者の方々をお迎えして洗礼志願式が行われました。この四旬節の間、わたしたちは皆、新たに洗礼の恵みに与る方々をお迎えして、わたしたちの信仰を新たな心で受け止め直すよう招かれています。四旬節は回心の時と言われますが、わたしたちにとって回心とは、何よりもわたしたちのカトリック信者としての信仰を新たな心で受け止め直すことです。わたしたちのカトリック信者としての信仰は、わたしたちと、わたしたちが信じているイエス・キリストとを結びつけるものです。わたしたちの信仰を新たな心で受け止めなおすためには、わたしたちが信じているイエス・キリストとわたしたちの結びつきが、わたしたちのカトリック信者としての生き方の中でどのようになっているかということを見つめ直す必要があります。それが回心のための第一歩です。

そのようにして、自分のカトリック信者としての信仰を見つめ直す時、わたしたちは暗澹たる気持ちに陥らざるを得ないかもしれません。わたしたちを取り巻き、わたしたちに押し迫ってくる日々の生活の中で、カトリック信者としての意識をもって生きることは並大抵のことではないからです。それゆえに、自分の信仰を振り返り、自分の中のイエス・キリストとの結びつきを見つめ直すことは、わたしたちを居たたまれない思いにさせます。わたしたちにとって回心ということは、わたしたちが思っている以上に困難なことです。

それでも、四旬節の呼びかけに応えて、わたしたちの信仰における回心を心がけようとする時、今日のご変容の福音は大きな示唆と慰めを与えてくれます。わたしたちは自分の信仰のいたらなさを嘆く前に、わたしたちが信じているイエス・キリストのご変容を願うべきなのです。わたしたちの内におられる主イ

エス・キリストのご変容を願うべきなのです。

今日の福音の直前の箇所、イエスはご自分がこれから向かおうとしておられる、受難の死と復活への道を弟子たちに告げておられます。それを聴いた時、ペトロは「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」と、十字架の道に進み行こうとしておられるイエスを諫めようとしたのでした。

自分たちが信じて付き従って来たイエスが、人々の手にかかって殺されるなどということは、弟子たちにとって思ってもみなかったことだったにちがいません。弟子たちだけには分かってもらいたいとイエスが思っておられたことが、ペトロを始めとする弟子たちには全く理解されていなかったのです。「サタン引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」という、ペトロに向けられた厳しい叱責のことばは、イエスの深い落胆と嘆きを示すおことばです。わたしたちもまた、イエスと結ばれた者たちでありながら、「神のことを思わず、人間のことを思っている」との、イエスの叱責のことばを浴びなければならない者たちです。そんなわたしたちを今日の福音は、あの三人の弟子たちとともに、イエスのご変容の場に立ち合わせようとしているのです。

人間のことでなく神のことを思うためには、神の啓示の光が必要です。イエスを包んだあのご変容のまばゆい光はそのことを示しています。その光の雲の中から父なる神のみ声が響きます。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」。十字架の道を行かれるイエスを指し示す父なる神のみ声です。

四旬節の間、わたしたちは普段よりも心をこめてイエスの十字架のお姿を仰ぎ見ます。イエスの十字架がわたしたちに問いかけてくることを受け止めようと、イエスの十字架のお姿に心を向けます。そのようなわたしたちに、今日の福音の父なる神のみことばは語りかけてくださいます。そして、わたしたちをイエスの十字架のみ後に従う者となるよう、あらためて招いてくださるのです。

あのご変容の光の中から、弟子たちに近づいてくださったイエスは、あらためて弟子たちを連れて、ご変容の山を降りて十字架の道を進まれます。弟子たちには、あのご変容の山で見たこと、聞いたことが本当に理解できたのでしょうか。あのイエスを包んだ光と、その光の中から聞こえた父なる神のみ声が指し示す、イエスの十字架の意味を受け止めることが出来たのでしょうか。わたしたちには、あの時の弟子たちよりもずっとよく、今日の福音が意味していることが理解できるはずですが、わたしたちの回心は、今日の福音が告げていることを、わたしたちが正確に受け止めることが出来るかどうかにかかっています。今日の福音が告げていることを正確に受け止めることが出来るなら、わたした

ちの日々は、イエスを包んだご変容の光に包まれ、わたしたちの信仰そのものの変容を経験するはずです。わたしたちの日々は、父なる神のお望みに従って、父なる神の愛する子、父なる神の御心に適った者として、十字架の道を歩み通されたイエスに従う日々となってゆくことでしょう。自分の思いではなく、人間の思いではなく、神の思いを受け止めた者としての生き方が始まってゆくことでしょう。わたしたちの日々に起こる全てのことを、十字架のイエスにならって受け入れて行くこと出来る時、わたしたちもイエスに従う者たちとして、神の思いに応える、神の子らとされてゆくことでしょう。その十字架の道を歩み通すことによつてのみ、わたしたちも復活のイエスの待つ、光の世界に生きることが出来るのです。

ご変容の山を体験した弟子たちが、新たにイエスの後について行ったように、わたしたちも十字架の道を行かれるイエスのみ後についてゆく決意を新たにしたいと思います。回心は恵みです。その恵みは、わたしたちが信じているイエスが、わたしたちの中で変容してくださることによつてもたらされる恵みです。そのような恵みを願って、この四旬節の日々を生きたいと思います。